

「シドニー便り 2. 0」(第18回)

～ 年のはじめに ～

1月5日



皆さま、それぞれに有意義なクリスマスと新年を迎えられたことと思います。

日本では年明け早々から能登半島での大地震そして羽田空港での航空機衝突と、大きな災害や事故に見舞われました。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。当総領事館にもお見舞いのメッセージが寄せられており、感謝申し上げます。

2022年9月末に着任してから1年3ヶ月が経ちました。着任した当時は、コロナ禍を経て、シドニーの街全体が「通常モード」に戻っていることに深い印象を受けました。そして昨2023年は、コロナ禍の中で蓄積していたエネルギーやマグマが、行き先を求めてさらに花開いた一年であったように感じます。特に11月中旬から12月中旬にかけては、昼夜を問わず、連日、集中的に、多くの行事が行われたので、身体がもう一つ欲しい思いでした。日程の重複から一部の行事への参加は見送らざるを得ず、ゴメンナサイ。

日本や日豪関係に関連する行事も、一年を通じて、経済・学術・教育、文化、芸術、スポーツ、地域間交流といった様々な分野で開催され、勇気づけられました。要人を接遇する機会も増えました。ありがたいことです。

心残りは、サッカー女子日本代表「なでしこJAPAN」を当地にお迎えできなかったことでしょうか。高円宮家憲仁親王妃久子殿下も日本サッカー協会名誉総裁としてNZに加えてシドニーに御来訪の御予定でしたが、直前の御母堂様の逝去に伴い、御訪問を見送られました。今夏のパリ五輪での「なでしこ JAPAN」の活躍に期待します

昨年を通じて印象に残ったのは、日豪間の安全保障分野の協力の強化と、それに伴う、防衛省・自衛隊関係者の訪問の著しい増加でした。国立海洋博物館で行われた防衛装備品の国際展示会には、防衛省・自衛隊の幹部に加え、防衛産業の関係者も数多く参加・出展しました。日米豪印の共同訓練「マラバール」に参加する海上自衛隊護衛艦「しらぬい」のシドニー寄港もありました。同艦での船上レセプションは、「さすが、海上自衛隊」とうならせるようなおもてなしで、その料理や演出の質の高さは多くの参加者を魅了していました。

日本の政府・議会関係者だけでなく、地方自治体代表団の来訪も相次ぎました。本年は、東京都とNSW州の姉妹友好都市関係樹立40周年にあたります。2月上旬には小池百合子都知事がシドニーを訪問予定です。

8月にはカウラ日本人捕虜集団脱走事件の80周年を迎えます。こちらも日豪友好に携わる日本からの多くの来客がある見込みです。

NSW 州内事情に目を向けると、住宅不足、生活費の高騰が喫緊の課題となっています。その中で日本企業が住宅産業、都市開発で活発に活動し、住宅不足の緩和に貢献していることを誇らしく思います。日本企業の活動や貢献を積極的に宣伝していく機会を作っていきたいと思う次第です。

本年も皆さまと一緒に日豪関係を盛り上げていきたいと思えます。私自身も引き続き様々な行事に進んで顔を出して、日本のプレゼンス、存在感を高めるように励んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(以上)